

肉屋に好まれる
お肉づくりを目指して
～胃液で始める腸内改善作戦～

3年牛班 村瀬怜奈 田口朝菜
上田航大 三田理央

3年間の取り組み

①成牛から育成牛への胃液移行

②アマニウム添加

③スプレーを使用したサシバ工対策

テーマ設定理由

～精肉店へのアンケート～

歩留まりの良さ

脂質の良さ

もも抜け

コザシ

テーマ設定理由

歩留まりを高くしロスの少ない
枝肉を生産する。



精肉店に好まれ、多くの消費者に
手に取ってもらえる！

歩留まりを高くする方法として
ルーメンに着目！

テーマ設定理由

飼料中のエネルギー

可消化エネルギー

代謝エネルギー

正味エネルギー

糞

尿

熱量



テーマ設定理由

ルーメンの働きを良くし
糞中の未消化物を分解できれば...

同じ給与量でより多くの栄養を
取り入れ、歩留まり改善ができる！

調査内容

母牛から子牛へ胃液移行
→ルーメン微生物の早期定着



成牛から育成牛への胃液移行でも
同様の効果がえられるのでは？



胃液移行

R3年度10月下旬

名前	生年月日	血統	性別
とわ	令和2年8月27日	花福桜	雌
もみじ	令和2年10月13日	孝隆平	雌
みちこ	令和2年9月1日	広茂清	雌

とわ 繁殖牛の胃液 1L

もみじ 肥育牛の胃液 1L

みちこ 胃液移行なし 基準

調査項目・調査器具

毎日

給与量

残飼量

健康チェック

2週間に1回

体重測定

糞調査

糞秤量リング



硬さ

Phメーター



Ph

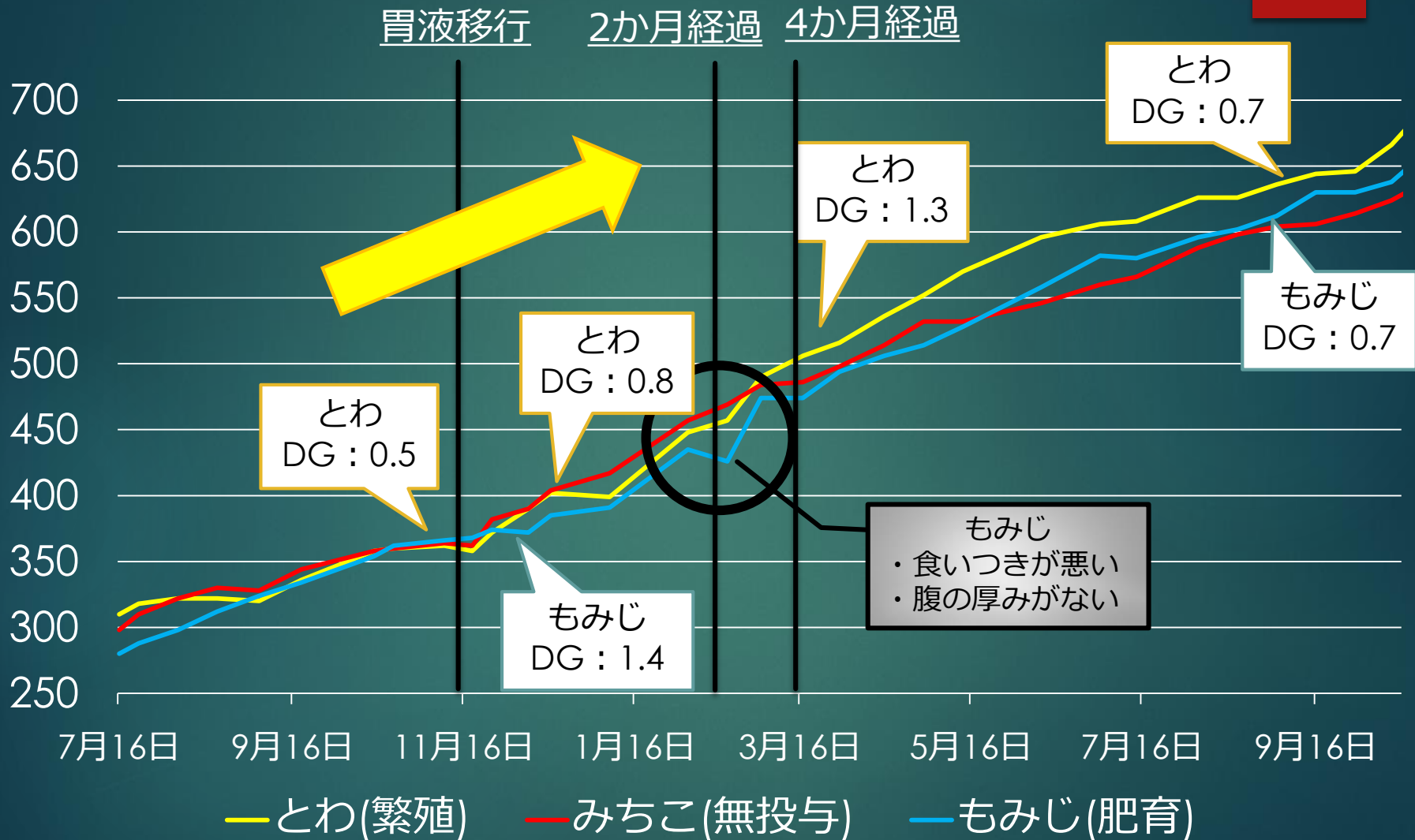
ダイジェスション
アナライザー



消化率

結果

体重の推移



DG = 1日あたりの平均増体重

結果

飼料要求率



みちこと比べ、胃液移行を行った2頭の方が良い結果となった。

結果

糞300g中の未消化物の重さ



大きな違いはなかったが、3頭ともムチンが少なくいい消化状態であることが確認できた。

考察

①繁殖牛の場合

○ 持続性がある

✕ 胃液の効果が出るのが遅い

～繁殖牛～

粗飼料を多く与える飼育管理を行っており、
繊維質を分解する微生物が多くいるため安定したルーメン環境を獲得している。

②肥育牛の胃液



効果が出るのが早い



持続性がない



効果が切れた後は...

その牛自身の能力しか残らない。

しかし、、、

胃液移行して2ヶ月頃、発熱を起こし
飼料を食べなかった。

発熱が原因で増体が悪くなった
可能性がある！！



飼料要求率の結果から

胃液移行を行った2頭の方が
みちこと比べ数値が高かった。



胃液移行を行うことで微生物の
働きが良くなる。



少ない飼料量で体重を増やせる。

しかし...

一回分の研究データでは効果を断定できない。

今回の結果が胃液のものと断定できれば飛驒牛の課題、畜産業全体をより良くしていく1つの方法になると考えている。

飼料価格高騰への対策にもなると期待できる！



ご清聴ありがとうございました！